

「岩手の復興と再生に」 オール岩大パワーを

vol.46

<http://www.iwate-u.ac.jp/koho/fukkouletter.shtml> 岩手大学ホームページからもご覧いただけます。

公開シンポジウム 「東日本大震災からの地域と農業の復興」を開催しました

9月16日、公開シンポジウム「東日本大震災からの地域と農業の復興」（主催：農業環境工学関連5学会 2015年合同大会実行委員会、岩手大学三陸復興推進機構）が岩手大学を会場に開催されました。

本学からは農林畜産産業復興推進部門の兼務教員である松嶋卯月農学部准教授が、園芸作物の栽培支援を行っている中、農家によって技術の取り入れ方が異なることに着目し、その差異を探るため実施したアンケート調査の概要を報告しました。

松嶋准教授は、調査の結果、労働力・資金面によって新たな技術を取り入れる負担が異なるので、それぞれの身の丈に合わせた技術でステップアップする農業を、今後提案したいと述べました。

また、被災地のコミュニティづくりについて、三陸復興推進機構・船戸義和特任研究員から、震災当初からの支援の実例をあげるとともに、支援者が全面的に介入するのではなく、住民の自立と共助に役立つことを目的として支援にあたり、地域の人々が主役になって課題を解決していくコ



松嶋准教授

ミュニティを住民自らが作っていくことの重要性を訴えました。

終わりに、岡田益己三陸復興推進機構客員教授が、復興支援は被災地だけでなく、その他の地域にもつながる活動であり、支援者は良きファシリテータになってほしいとの言葉で締めました。

プログラム

【挨拶】 八代仁岩手大学三陸復興推進機構長

「仙台平野沿岸部における水田農業の復興」

農研機構東北農業研究センター 大谷隆二

「ローテクを生かせ！～身の丈に合った農業復興～」

岩手大学農学部 松嶋卯月

「放射性物質汚染からの農業復興を目指して

～元飯館村職員が見た現実と未来～

国際農林水産業研究センター 万福裕造

「主役は誰か？～コミュニティづくりの取り組み～」

岩手大学三陸復興推進機構 船戸義和

【総合討論】

宮古市・久慈市・大船渡市の産業まつりに出展しました

岩手大学では、10月2～3日に宮古市、10月17～18日に久慈市と大船渡市の産業まつりにおいて、岩手大学と各地域が共同研究等を行っている事例のパネル及び実物の展示等を行いました。

宮古市では、音響機器メーカーである(株)宮古マランツと教育学部・田中隆充教授との共同研究で製品化した真空管アンプを展示しました。このアンプは、岩手県の伝統工芸品である岩谷堂筆筒のエッセンスを取り入れて製作されており、来場者は、その目を惹きつけられるデザインと良質な音質に足を止めていました。

また久慈市では、これまで、久慈市や近隣市町村との共同研究品を紹介するパネルを展示するとともに、来場した児童に岩手大学のマス

コットのがんちゃんグッズを配付し、大学を身近に感じてもらいました。

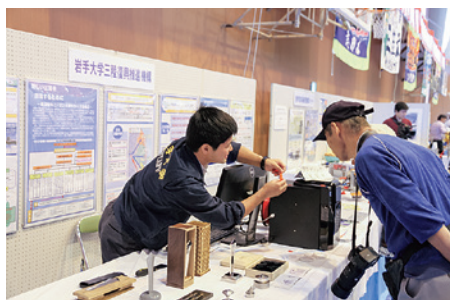
大船渡市では、新たな技術・産業の創出や技術者の育成等に取り組んでいるものづくり産業復興推進部門が所有している3Dプリンタで試作を行い、昨今、普及が広がっている機器を来場者に紹介する場となりました。

3つの市には、エクステンションセンターを設置し、それぞれに三陸沿岸地域と岩手大学をつなぐプロジェクトマネージャーが常駐しています。これからも、沿岸自治体と連携しながら、三陸沿岸の支援ニーズを収集し、岩手大学のシーズに関する情報提供やマッチング等を通して、復興推進に努めてまいります。



真空管アンプ(宮古)

アンプの側面には絆さくらの文様が浮かび上がり、木目だからこそ歳月が経つごとに味が出てきます



3Dプリンタを使って試作(大船渡)

来場者の方に試作品を手に取っていただきました



岩手の復興推進活動について紹介(久慈)
お子さんにもがんちゃんグッズを配ってPR

釜石サテライトだより

ものづくり産業復興推進部門技術指導班は、(公財)釜石・大槌地域産業育成センターに設置した「三陸復興推進機構ものづくり産業復興推進部門サテライト(「ものづくりサテライト」)」に活動の拠点を置き、種々の導入機材を地域企業の方が活用して試作開発・技術研修などに取り組めるように支援をしております。

活動の最終年度となる今年度は、これまでの活動の総仕上げとして以下の事柄に特に重点を置いています。

●コバルト系合金での試作や製品開発の支援

活動開始当初より、産学官連携の研究成果であるコバルト系合金の加工を通して培われた難削材の加工技術が地域に定着し、地域企業が特徴ある加工業者として活躍する事が出来るようにと支援してまいりました。

これまでに地元企業が同合金での試作加工に取り組むだけではなく、実際に「震災の鎮魂のためのモニュメント」や、「高級酒器」などを作製し、販売につなげた例があります。

引き続きこの様な地元企業の活動を支援し、多くの方が注目する「特色あるものづくりをする地域」の創生を支援していきたいと考えております。

●地域企業の自主的な技術研鑽や連携の支援

前述のコバルト合金製の製品の試作加工に当たっては、サテライトの機材が活用され、またその製造から販売に至る過程では、複数の地域企業が連携して取り組みました。

この地域には、こうした企業の技術研鑽への志や、複数の企業が連携する良い雰囲気があります。地元企業がより積極的にこうした取り組みを行ない、新製品開発に繋げる事が出来るように、企業の技術研鑽の支援や、企業間連携を支援してまいります。

これらの事を通して部門の目標として掲げた「三陸沿岸地域におけるものづくり産業の早期の復興支援と新たな産業の創生」が実現に近づくよう、努力していきたいと考えております。



地元企業が連携して全日本コマ対戦に参戦



地元企業の方がサテライトの機材を活用する様子

震災発生から5年が経とうとしておりますが、ものづくり産業復興推進部門では、地元のものづくり企業がこれまでの知識や経験を生かし、さらに力強く、そして特色ある企業として歩むための支援を続けてまいります。

連絡先 岩手大学三陸復興推進機構釜石サテライト

〒026-0001 岩手県釜石市平田第三地割75-1
TEL:0193-55-5691(代表) / FAX:0193-36-1610
E-mail:kamaishi@iwate-u.ac.jp
URL:http://www.iwate-u.ac.jp/reconstruct/kamaishi/

Information

SANRIKU(三陸)水産研究教育拠点形成事業 水圏環境調査研究成果報告

「三陸の水圏環境～森川海のつながりを活かした内発的復興を目指して～」

この度、岩手大学と東京海洋大学で取り組んでいる水圏環境調査について、これまでに得られた研究成果をご紹介します。

日時：平成27年12月5日(土)10:00～15:00
場所：岩手県立水産科学館(岩手県宮古市日立浜町32番地28)

その他：11月15日(日)～12月5日(土)まで研究ポスター展示も行っていきます。

内容：開会(10:00)
第一部「生物と環境セッション」(10:15～12:00)
沿岸の生物たちと環境の関わりについて、様々な視点から考えていきます。
第二部「水環境セッション」(13:00～14:45)
沿岸の森-川-海をつながりについて、水環境を通して考えていきます。
閉会(15:00)

問合せ先

岩手大学三陸水産研究センター水圏環境部門 竹原明秀
TEL・FAX：019-621-6830
E-mail：takehara@iwate-u.ac.jp

